

苅田町立図書館 新着推し本紹介のこーなー

5月の推し本



『中高生のための本の読み方』

大橋 崇行 // 著 ひつじ書房 請求記号 019.5/オ/ 資料番号 610136350

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605050>

【紹介文】「不読率」という言葉があります。一ヶ月の間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合のことで、2019年のデータによると高校生は55%、中学生は13%になるそうです。そんなに本を読まないといけませんか？勉強やスマホ、SNSなど子どもを取りまく環境は変わってきているのに、いつまでも頭ごなしに「本を読め！」というのはどうなんだろうと。しかし、若い頃に読書力をつけることの意味は、確かにあるのです。

読書には時間がかかります。効率よくいい読書をする、そういう時にこの本の番です。テーマ別に興味のあるものから、紹介の本は片っ端から読破して行って欲しい。これが本を読むきっかけになればと思います。

『ミスしない大百科』

飯野 謙次 // 著 宇都出 雅巳 // 著 SBクリエイティブ 請求記号 336.5/イ/ 資料番号 610141848

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605992>

【紹介文】日常で起きてしまう「忘れ物をしてしまった」「書類に間違いがあった」などのミス。ミスをしてしまった時、誰もが次は気を付けようと思いますが、それではミスはなくならないと著者は述べています。なぜ気を付けるだけではミスが無くならないのか。それは『「気を付ける」ために必要な「脳」の「注意」の数に限界がある』から。ミスを減らすには、なぜミスが起きてしまったのかを考え、起こさないための仕組みを考えること。また限りある脳の注意の無駄遣いをやめること。本の中では具体的な方法も書かれています。他にもミスが起きた時の日本とアメリカの対応の違いなども書かれており、興味深かったです。

『災害不調』

工藤 孝文 // 著 KADOKAWA 請求記号 493.7/ク/ 資料番号 610141681

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605940>

【紹介文】いつ起こるか分からない異常気象や地震、そして感染症などの自然災害が続く日本。その中で「なんとなく」と自分の体調不良の原因がはっきりせず、もやもやしている方が多いような気がします。そんな不調の原因が【災害不調】だとは！

健康本の要素もあり不調の改善策も書かれています。今の自分にできる範囲で実践してみるのもいいかも。

『刺しゅう糸で編む日本の妖怪図鑑』

日本ヴォーグ社 請求記号 594.3/シ/ 資料番号 610141293

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00606153>

【紹介文】表紙を見た瞬間、可愛さに悩殺されます♡

マイナー妖怪だった『アマビエ』は、この数年でメジャー妖怪(?)の仲間入りを果たしました。また、『鬼滅の刃』の大ヒットで鬼も脚光を浴びました。日本は古来よりアニミズム信仰があり、説明しがたい不思議な現象を起こす『妖(あやかし)』や『物の怪(もののけ)』を、恐れながら愛してもきました。私も好きです、妖怪。表紙も可愛いのですが、本の中にも一癖ある可愛い妖怪たちが控えています。眺めるだけでもいいけれど、久々に創作意欲が刺激されています。

『北斎さんぽ』

片山 喜康 // 著 青幻舎 請求記号 721.8/カ/ 資料番号 610140147

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605785>

【紹介文】日本を代表する浮世絵師・葛飾北斎。代表作「富嶽三十六景」では、赤富士・黒富士が有名だが、もう一つの色、西洋画にも大きく影響を与えたと言われている「青」。北斎ブルーと呼ばれ、「神奈川沖浪裏」の富士山は大波の間から青く見える。この絵は、次の新千円札に採用され、北斎の作品は幾年経っても受け継がれている。その「富嶽三十六景」時代の諸国名所と、現在の東京を照らし合わせ、北斎が見た当時の風景に想いをはせたい。

『その言葉、もう使われていませんよ』

日本語倶楽部 // 編 河出書房新社 請求記号 810.4/ソ/ 資料番号 610142754

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605919>

【紹介文】JALや東京ディズニーランドなどでアナウンスで使用されていた、「レディースアンドジェントルメン」は「エブリワン」に。「体育の日」は「スポーツの日」に。時代の変化とともに言葉も変わっています。サブタイトルは、「もはや古い日本語を最新にアップデート」とあります。これからの社会生活を送るなかで、気を付けなければならない言葉がたくさんあり、この本では様々なジャンルの言葉をクイズ形式で取り上げていて、なぜそう変わったのかの説明もあるので知識の更新にもってこいの一冊となっています。

『大人は知らない今ない仕事図鑑100』 (児童書・おしごと)

澤井 智毅 // 監修 講談社 請求記号 366/オ/ 資料番号 620050344

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00603771>

【紹介文】人間がしている仕事の3分の2をAIが取って代わる時代が来るといわれています。将来こんな仕事をしたいと思っても、ひょっとしてその仕事が無くなっているかもしれない。でも、それと同じくらいAIを使って、人が行う新しい仕事が出てくると、この本では紹介しています。いま、コロナの影響で生活スタイルも変わり働き方もずいぶん変わりつつあります。優しい社会、わくわくする未来のための「今ない仕事」をさがして、作っていくと考えると少し楽しくなってくるかもしれません。

『ロサリンドの庭』 (児童書・ものがたり)

エルサ ベスコフ // 作 あすなる書房 請求記号 949/ハ/ 資料番号 620053975

<https://ilisod001.apsel.jp/lib-kanda-fukuoka/wopc/pc/OpacServlet?disp=searchResultDetail&id=00605728>

【紹介文】病気がちな男の子とお母さんがくらしている部屋のかべ紙の中からとつぜん出てきた女の子・ロサリンド。いつもお母さんが仕事に行っているときはひとりぼっちでかべばかり見ていたのでお友達ができうれしくて、元気になっていく男の子ですが、住んでいる家がこわされることになってしまい、お別れの時が近づいてきます。北欧のうつくしい花々が登場するきれいなお話です。そして、「えっ？」とおもえるラストが待っています。



問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30 (木・金は19：00まで。本館のみ)

ホームページから蔵書検索もできます



(2021.5.5発行)